（共同リリース）

2026年9月11日
日本航空株式会社
Donecle

国内初、JALとDonecle、自動飛行ドローンによる航空機外観検査の検証開始

～航空機整備のさらなる作業効率と機材品質の向上、整備士の安全性の確保の実現へ～

日本航空株式会社（以下「JAL」）とフランスの航空機整備用ドローンメーカーであるDonecleは、日本国内で初めて、航空機メーカーの整備マニュアルで認められた完全自動飛行ドローンを活用した機体外観検査の検証を開始しました。

本取り組みは、従来の整備士による目視検査のための高所作業をドローンで代替することで、作業時間の大幅な短縮と整備作業の安全性向上を目指すものです。さらに、検査の効率化により創出された時間を予測整備などに充てることで、さらなる機材品質の向上が期待されます。

航空機の目視外観検査は、巨大な機体を整備士が目視で確認するため、多大な時間を要するほか、高所作業も伴うため安全性の向上も課題でした。これらの課題を解決すべく、ドローンが機体外観を撮影し、整備士はその高精度な画像をもとに確認・検査する手法の確立に取り組んでいます。2026年6月末から、実機で目視検査とドローン画像の比較を行い、航空機整備におけるドローン検査の有効性の検証を進めています。

採用したDonecleのドローン「Iris GVI」は、航空機メーカーの整備マニュアルでも使用を認められた信頼性の高い機体で、障害物検知機能により航空機に接触せず完全自動で飛行が可能です。ドローン操作者の技量に左右されず、常に一定の基準で高解像度な画像を撮影することができるほか、画像解析技術により不具合箇所の正確なマッピングや計測も可能です。

■使用するドローン「Iris GVI」概要

メーカー	Donecle（フランス）
サイズ	L855mm×W855mm×H245mm
重量	3,700g（バッテリー含む）
操縦方式	完全自動飛行

現在はJALの格納庫内で実証実験を行っておりますが、将来的には突発的に発生する被雷検査の迅速化による運航遅延の最小化や、機体の塗装状態の定点モニタリングなど、国土交通省と引き続き連携することで活用範囲の拡大も視野に入れ、さらなる定時性・機材品質の向上を目指します。

JALとDonecleは、本取り組みを通じて世界の航空整備におけるドローン検査の普及に貢献するとともに、航空機整備の変革に挑戦し続けることで、安全・安心な空の旅を支え続けてまいります。

以上